

分 か る と 快 感 !

# Z会ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お 題 だい

## 江戸時代、どのような商品が 全国に運ばれたの？

(東京大学 2015年 白本史)

次の(1)～(4)の文章を読んで、大坂(現在の大阪府)から江戸に大量に送られた商品とそうでない商品の差について、説明しなさい。

(1) 次の表は、1724年から1730年の7年間、大坂の町人が江戸へ送った商品の量を、年平均にして示したものである。

繰綿	95,737本
木綿(綿布)	13,110個
油	62,619樽
しょうゆ	136,526樽
酒	219,752樽
炭	447俵
薪	0
魚油	60樽
みそ	0

(2) 江戸時代には、綿や油菜(菜種)が温暖な西日本で盛んに栽培され、衣類や灯油の原料になった。

(3) 綿から摘まれた綿花には種子が入っていたが、それを繰屋が器具で取り除き、繰綿として流通した。繰綿や木綿は、綿の栽培がされない東北地方へも江戸の商人を介して送られた。

(4) 当時、菜種や綿花の種子を搾って灯火用の油をとったが、摂津(現在の兵庫県と大阪府)の灘目には水車で大規模に油をとる業者も現れた。上総(現在の千葉県)の九十九里などでは、鱈からとった油(魚油)も作られたが、質がよくなかった。

スーパーマーケットに買い物に行くと、日本全国や世界から送られてきたさまざまな商品が売られています。今回は、江戸時代にはどんな



イラスト：瑞木匠

## わた あぶら さけ 綿や油、酒…

商品が各地に運ばれたのか、見ていきましょう。

### 生産地から消費地へ

江戸時代の中ごろ以降になると、全国を回る海の流通ルートが整えられ、陸を使うよりも、多くのものを一度に運ぶことができるようになりました。問題文の表を見ても、さまざまな商品が、たくさんの消費者がいる江戸に運ばれていることがわかります。

酒やしょうゆは西日本に灘や龍野などの有名な産地がありますし、問題文を見ると西日本は油や綿の生産にも優れていたことがわかります。綿はさらに、江戸を通して東北地方にも送られていったのですね。

### 運ばれてこないもの

ただ、表の後半の炭・薪・魚油・みそは、江戸の人口をまかなうほどの量が運ばれてきていないようです。

これについては、(4)の文章がヒントになります。(4)の文章より、魚油が江戸近くの千葉県で生産されていることがわかりますので、炭・薪・みそについても、江戸近くでの生産量でまかなえるものだったのでは、と推測できます。近くから運べるものは、そのほうが運搬する手間がかかりませんので、大坂からは送られなかったのですね。【Z会・河原井彩】

### ！今回の教訓

食品の産地から消費地まで運ばれる距離に着目した考え方を「フードマイレージ」といいます。買い物の際にも、食品の種類とフードマイレージに着目してみると、それぞれの食品の特徴が見えてきます。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。